



瓊浦の魅力を再発見!!

県美術館で開催

瓊浦

第3号

平成31年3月1日発行

瓊浦高等学校

住所 長崎市伊良林
2丁目13番4号

電話 826-1261(代)

FAX 820-5245



一月十九日から二十四日まで、長崎県美術館において、「けいほ展」が開催された。「けいほ展」とは、瓊浦高校の特色ある教育活動の紹介や授業、部活動で制作した生徒の作品展示がなされ、多くの方々に瓊浦高校の魅力を知ってもらおうというイベントである。文化祭で二年が制作した品々も展示され、機械科二年A組の「ミニチュア教室」は、その完成度の高さから多くの人々の注目を集めていた。また、受付後方に飾られた普通科二年B組の「ツムツム」は、子ども達から大人気で、一緒に写真を撮るなどして来場者の方々も楽しそうに展示物の見学をしているようであった。

昨年まではKTNギャラリィで行われていた「けいほ展」だが、今年から県美術館の県民ギャラリィを利用し、より盛大に開催されることとなった。土日はもちろんのこと、平日にも多くの方々が見に来て下さり、六日間の開催で延べ一八〇〇人以上の来客数があり、文字どおり大成功を収めたといっているだろう。



も瓊浦の和太鼓や吹奏楽部に興味を持ってくれる人がいてくれればと願うばかりである。

来年も二月十日から同会場で行われることが決定している「けいほ展」。数多くの運動部が上位大会に進出するなど、運動面の印象が強い瓊浦高校だが、文化面ではこれだけの力があるんだということを広く知ってもらおう貴重な機会となる。こうしたイベントをきっかけとして、より多くの方々に瓊浦高校の色々な魅力を知ってもらいたい。

た **ま** **の** **う** **ら**

「何故、勉強しなければならぬのか」
 誰も学生時代に一度は考えたことがある、もしくは口にして学校の先生を困らせたことがあるのではないだろうか。よく耳にする疑問でありながら、明確な答えを返せるという人は意外と少ない。「良い仕事に就くため?」「自分の世界を広げるため?」
 様々な意見があるだろうが、結局これといった解答は得られない。勉強している現実を皆はどのように考えているのだろうか。その疑問を解決するための一助として、森絵都さんの「みかづき」という小説を紹介したい。現在NHKでドラマ化もされている。この作品は戦後まもなく、学習塾講師として生きた大島吾郎とその家族の一生を描いた小説で、教育についての熱い議論が作中に幾度も交わされる。その中でも吾郎を塾講師に勧誘する際に千明(後の吾郎の妻)が発する台詞は非常に興味深い。
 「正義や美德は時代の波にさらわれ、ほかの何ものかに置きかえられたとしても、知力には誰にも奪えない」
 「十分な知識さえ授けておけば、いつかまた物騒な時代が訪れたときに、何が義であり、何が不義なのか、子どもたちは、自分の頭で判断することが出来る」
 確かにその時代時代によって、流行廃りが存在し、その都度正義が変貌するといっても過言ではない。お金は大切ではあるものの、時代の変化によっては紙幣などただの紙切れになる可能性だってある。そんな中、学んで身につけた知識は、どんな権力者にも奪うことの出来ない財産なのである。戦争を経験し、多くのものを奪われた千明ならではの台詞ではあるが、その通りだと私のように感銘を受ける人も多いのではないだろうか。
 「平成」という一つの時代が終焉を迎え、新たな時代の幕開けとなる二〇一九年。科学技術の発展、グローバル化、高齢化、などなど世の中は常に変貌し続け、私たちが生きていく将来はどのようなものになるかまるで想像もつかなくなっている。一寸先は光か闇か。そういった新しい時代の中で、本当に大切なものは何か。そう考えた時、現在の地位や名誉などは、どのように感じられる。本当に大切なものは、新たな時代を生き抜くための判断力、そしてそのための知識なのではないのだろうか。
 「何故、勉強しなければならぬのか」という問いに対してこう答えた。
 「明日を生き抜くため」
 高校を卒業し新たな時代に飛び込んでいく卒業生の皆さん。学校を卒業しても、あなたたちの勉強は終わりではない。むしろ、始まったばかりだ。これからは社会という実践の場であり、多くの知識を得て、これからの混沌とした時代を、自らの力で切り拓いてもらいたい。

第七十回生 学年主任 前田 剛 先生

卒業される二七七名のみなさんご卒業おめでとう
ございます。

この一年、「平成最後の〇〇」という言葉をよく
耳にしました。君たちにとっても、瓊浦高校にとつ
ても平成最後の卒業生ということになります。思い
起せば、良い事も、悪い事もあった三年間でした
が、不思議なことに良い思い出しか蘇ってきません。
入学時は高校生とはいえ、中学生の雰囲気を残す幼
さがありました。それが時間の経過と共に、瓊浦高
校での学びを通して、大人として成長していく過程
に私たちが立ち会えたことを嬉しく思います。

さて、日本は明治維新から一五〇年が経過しまし
た。この一五〇年を大きく分けると明治維新から
第二次世界大戦までの前半と第二次世界大戦から今
日までの後半に分けることができます。共通するの
はいずれもゼロの状態からのスタートだったという
ことです。まず前半のスタート時は、イギリスなど
を主にヨーロッパの国々から大いに学んで近代化を
図ることになりました。外国から産業技術や知識、
政治の仕組みなど多くの事を学び、日本を守るため
発展させるために懸命な努力を重ね、日本に戻って
きて外国で得てきた知識を日本の文化に合うように
変化させて日本を立て直しました。ただ、前半の途
中からは道を誤ってしまい、最後は戦争という最悪
の結末を迎えることとなりました。

後半のスタートは戦後復興というゼロからのス
タートです。広島・長崎をはじめ日本のほとんどの
都市は、戦争によって焼け野原になりました。そこ
から奇跡とさえいわれる復興、経済成長を達成した
理由は、やはりアメリカの存在が大きかったように
思います。テレビや冷蔵庫、洗濯機などの電化製品
があふれるマイホーム、あるいは自家用車が持てる、
アメリカのような暮らしに憧れ、産業もアメリカに
倣え、追い越せと励んだのです。

これから新しい時代が始まります。新しい時代は
決してゼロからのスタートではありません。しかし
間違いなく時代が大きく変わる時です。あらゆるも
のがインターネットでつながり、人工知能やロボッ
トが産業構造を大きく変えていきます。グローバル
化も一層進展します。私たちの働き方や生活も様々
変わり、人類がかつて経験したことのない、予測が
難しい時代が待ち構えているのです。

これからの時代を生きる君たちへ、二度ゼロから
這い上がってきた日本人の精神的支柱は何だったの
か。それは「負けてたまるか」と歯を食いしばって

普通科B組副担任 貝田 祐子 先生

三年生の皆さん、卒業おめでとうございます。瓊
浦で過ごした時間はどうでしたか？どんな時間も糧
であり、次の自分作りの土台です。卒業は、その土
台の上に好きな物に乗せていく時間の始まりです。
卒業を最高に喜び楽しんで下さい。社会では災難困
難苦難の直撃は必須。その時は、その土台に新たな
物に乗せ直せば常に「再建可能」。焦らず自分なりの
速度で自分の道を進んで下さい。

普通科C組担任 小森 泰洋 先生

卒業おめでとう
初めての三年間持ち上がり学年でした。君たちの
成長を身近に見ることができたことを、大変嬉しく
思います。私事ばかりあり、君たちよりも目立って
いなかったか心配です。君たちの心に深く彫り込ま
れた『瓊浦魂』は、どんな苦難にも立ち向かってい
ける武器になることと思います。よく学び、よく遊
び、精一杯青春を楽しんだ三年間でした。ご両親に
感謝し、これからはさらに頑張ってください。より一
層の活躍を心から期待しております。

情報ビジネス科A組副担任 堤 利貴 先生

学校の敷地内に足を踏み入れると、毎日早朝から
校内清掃をしてくれている部活生の元気な挨拶の
声。中でも女子部員たちは必ず姿勢を整えてから挨拶
の言葉を発し、笑顔で礼をしてくれました。こん
な生徒たちの姿を見る度に「よし、今日も頑張ろ
う！」という気になりました。九月の体育祭も十月
の球技大会も本当に楽しませてくれました。
君たちが居なくなるのは寂しいですが、卒業おめ
どう。出会ってくれてありがとう！

情報ビジネス科B組担任 内田沙也加 先生

ご卒業おめでとうございます。高校生活で得た経
験は、今後の大きな糧となるでしょう。これからは
自己実現できる自立した人間を目指し、より一層の
努力を重ねてください。さて、私が高校を卒業した
時、恩師に頂き今でも心に残っている言葉がありま
す。『Keep hope alive!』希望を持って生きること。
夢や希望を持って、知識や経験を積む。そうすれば
自ずと成長し、幸せな生活が送れるはず。皆さ
んの今後の活躍を期待しています。

龍馬コース機械科A組副担任 岩原 数憲 先生

充実した人生のために
世界情勢はめまぐるしく変化し、先を見通すのが
難しい時代になった。充実した人生を過ごすために
何をなすべきかを考え、自分の存在価値を高めるこ
とに知恵を絞ってほしい。自ら情報を集め、考え、
自らの意思で働くことだ。自分で未来を切り開く姿
勢を身につけること。そのことが、もっとも納得で
きる人生を歩むことにつながるのではないかと。

機械科B組担任 福島 慎治 先生

ご卒業おめでとうございます。私が中学生の頃か
ら大切にしている武者小路実篤の言葉を贈ります。
『この道より我を生かす道なし
この道歩く』
私自身、希望する道に進めず泣いたことも何度か
あります。しかし、みなさんと出会ったから今歩ん
でいる道に後悔はありませんし、自信を持って歩い
ています。選択する道はたくさんあり、色々な迷い
がよぎる時もありますが、進んだ道で全力を尽くし
てください。その道が最高の道だったと言えるよ
うに。たまには寄り道して瓊浦高校に顔を出して
下さいね。

機械科B組副担任 梅木 忠 先生

瓊浦高校七十回生のみなさん、卒業おめでとうご
ざいます。私は、高校を卒業してから四十年以上が
過ぎましたが、その中でも今も思い出に残っているの
は『恥ずかしかったこと』や『失敗したこと』です。
だれでも先が読めない中で、新しい経験をしてい
くのだから、『恥をかくこと』や『失敗すること』
は避けられないことです。その経験から学ぶこと
が大切です。

機械科C組担任 徳永 大輔 先生

御卒業おめでとうございます。これからは社会に



3年間お世話になった、
先生方から、
最後のメッセージ。

ルーム

last of memories

迎えた
のは、
けではない。
そして、
支えがあったから。

頑張り抜いた先人の精神力です。その強い精神力が連帯感をつくり、日本人の誠実さ・勤勉さが世界も認める成功へと導きました。それは瓊浦高校の校訓である「誠実・和・勤勉」でもあります。瓊浦高校で学んだ事をしっかりと胸に刻み、不撓不屈の精神でご活躍されることを祈念しています。がんばれ!!

龍馬コース普通科A組担任 詫間 智之 先生

七十回生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。これからは社会の一員として、社会に貢献できる人材になってもらいたいと思います。

では、最後に詫間先生から英語でメッセージを送ります(最後の授業)。起立、気をつけ、礼。お願いします。

Congrats graduates!

Keep it up!

Reach your goals!

This is the beginning of a bright future!

Good luck to you. We wish you the very best.

A friend in need is a friend indeed.

Graduation is not the end of a tough journey.

It is the beginning of a beautiful one.

Where there is a will, there is a way.

It is a long lane that has no turning.

Make hastes slowly.

三年間の授業で学んだものもあれば、まだ知らないものもあるかもしれませんね。これから続いていく人生も、日々勉強、日々精進の連続です。これからの七十回生の皆さんのご活躍を期待しています。起立、気をつけ、礼。ありがとうございます。 Thank you for everything!

普通科B組担任 鵜殿 達彦 先生

卒業おめでとうございます。

皆さんが瓊浦高校で過ごした三年間はあっという間だったと思います。これから皆さんは長い人生を歩んでいきます。そんな皆さんに輝かしい未来を掴んでもらうための願いと戒めをこめて、一つ言葉を送ります。それは「因果応報(いんがおうほう)」という四字熟語です。簡単に言えば、善い結果も悪い結果も、全て是自己が作っていくという意味です。これを胸に、他者を思いやり、これからも努力を重ねて、皆さんには明るく楽しい将来を掴んでもらいたいと思います。

高校卒業という 人生の大きな節目を 277名の生徒たち。

最後 ホーム

The

ここまでがんばってこられた 決して自分1人の力だ

家族、友人、先生方の

普通科C組副担任 佐藤 一司 先生

卒業おめでとうございます。四月からは皆さん一人一人がそれぞれの新しい道を歩むことになるわけです。自分自身の足で立ち、自分自身の頭で考え判断する、そして自分を信じて諦めることなくチャレンジしていきましょう!

『可能性とはつまり「未来の能力」のこと。現在の能力で、できる、できないを判断してしまつては、新しいことや困難なことはいつまでたつてもやり遂げられない。』
この言葉は、京セラや現KDDIの創業者であり、日本航空の奇跡の再建を成し遂げたことで有名な稲盛和夫さんの言葉です。皆さんの今後のご活躍をお祈りします。

情報ビジネス科A組担任 坂口 祐次 先生

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今後は進学・就職とそれぞれの進路でご活躍されることと思います。少しずつで大丈夫、ゆつくりと確実に進むことを何よりも大事にしてください。人と比べなくても大丈夫、あなたたちは皆それぞれ素敵などところを持った素晴らしい人々です。成長に伴ってこれから苦しいこと、辛いことが目の前に立ちふさがるかもしれません。でも大丈夫、すべては上手くいっている。あなたたちなら何があつてもきつと乗り越えていけます。皆さんのこれからに期待していますね!

情報ビジネス科B組副担任 阿部 泰宣 先生

AI(人工知能)の加速度的な開発と産業界での活用が進む。人間の培った英知の結晶ともいえる高度な技術により、益々、生活は便利、安全、快適に向かつてゆく。一方でAIには代替不能のことが話題にあがる。

目の前にいる人の心情を察し、喜びや悲しみを共有する。相手の思いが新しい知恵、勇氣、壁を乗り越える力になる。人間に備えられている「共感」の能力がそれにあたる。
来たる新時代に向け人類に問われるものは?文明の進歩を追求するその根底にある感謝や優しさを忘れぬようにしたい。
「人の心に寄り添って生きる。」多くの出会いの中で誰かが必ずあなたを必要としているのだから...。卒業おめでとう。皆さんの幸せを祈ります。

龍馬コース機械科A組担任 大坪 雅史 先生

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんと過ごした一年間があつという間に過ぎてしまいました。七十回生の皆さんは挨拶がしつかりでき、集会では話をしっかりと聞ける生徒たちだということも良い印象でした。

これから皆さんはそれぞれの進路に向かって巣立っていきます。色々経験をやる中で壁にぶつかったり、行き詰まったりすることもあると思いますが、それは自分が成長するチャンスだと思つて乗り越えてください。ひとまわり成長した皆さんと再会するのを楽しみにしています。

機械科C組副担任 荒木 康正 先生

『青春はなにかもが実験である』 (R.ステイヴンソン)

「今を一所懸命生きる」といわれても、その一所懸命というのがなかなか難しい。都度、結果や評価ばかりを気にしては、その行動は中途半端で、君の可能性は早々に限界が来てしまうかも。青春時代は失敗の連続です。高校卒業で青春が終わるわけではなく、まだまだ時間もたつぷりあります。七十回生の皆さん、色んな事に挑戦して成功・失敗を繰り返そう!皆さんのご活躍に期待しています! 「さあ実験を始めようか!」

機械科D組担任 東 晋吾 先生

卒業おめでとうございます。この三年間学業や部活動等に一生懸命励み、充実した学校生活を過ごしてきたことでしょう。これまで経験し、得たことは、これからの新しい人生の中で糧となり力となつて苦難を乗り越えてゆけると信じています。何事にも諦めない強い心を持ち自分の信じる道を歩み続けてください。もし、道に迷ったら楽な道ではなく、より険しい茨の道を選び、夢に向かって進んでください。みなさんの今後の活躍を期待いたします。

機械科D組副担任 林 貴昭 先生

ご卒業おめでとうございます。
瓊浦の卒業生として、
○「卒業生として母校を見守り、大切にしていこう」
○「卒業生として母校を心から応援していく」
自分の出身高校に誇りを持って、堂々と生きていって下さい。
皆さんの今後の活躍と幸せを心から願っています。

瓊浦学園賞

濱崎 陽彩 (龍機3A)

校長賞

小原 一愛 (龍普3A)
福江 美羽 (情3B)
下釜 基 (機3B)

私学賞

田中 ありす (普3C)

県教育委員会表彰

山崎 俊輔 (龍普3A)

産業教育振興中央会賞

三浦 太陽 (情3A)
吉田 太陽 (機3C)

商業教育成績優秀者表彰

只熊 利哉 (情3A)

県高文連卒業生顕彰

福地 紀香 (情3B)

全国高校生新聞社表彰

里 瑞葉 (情3A)

県高体連卒業生顕彰

黄 佳怡 (普3C)

70周年 卒業おめでとう!!

受賞者一覧

体育文化功労賞

団体
男子バドミントン部
平成30年度 全九州高等学校選抜大会
バドミントン競技
団体 準優勝
町田 脩太 (普1B)・永淵 雄大 (普1B)・
中村 恵大 (普1B)

空手道部男子
平成30年度 全九州高等学校総合体育大会
空手道競技
団体 第3位
中村 龍信 (機3D)・中島 達哉 (普3B)・
村野 和生 (普2D)・草場 一慧 (機2B)・
井上 楓稀 (機2C)・大楠 講太 (機2C)・
岩田 隼弥 (龍機1A)

男子ハンドボール部
平成30年度 全九州高等学校選抜大会
ハンドボール競技
準優勝
棚町 夏貴・松村 篤 (龍普2A)・井手 虎太郎・加藤 拓・
黒磯 瑤王 (普2B)・松永 和也 (普2C)・一瀬 太希・
本村 隆暉 (機2C)・小澤 誠介・田代 早斗・中井 博海・
前川 大樹・山崎 迅翔 (龍普1A)・上平 涼太・
阪田 良太・福本 雅人・前田 一鷹・増田 礼 (普1B)

特別功労賞

団体
男子バドミントン部
平成30年度 第46回全国高等学校選抜
バドミントン大会
団体 準優勝
滝口 友士 (龍普3A)・山田 麟 (普3B)・
酒井 瑛矢 (龍機3A)・奥村 魁夢 (機3B)・
町 祥英 (普2B)・中島 巧 (普2B)・
杉本 一樹 (普2B)

個人
陸上競技部
平成30年度 全国高等学校総合体育大会
陸上競技 男子1500m 第3位
林田 翔翔 (情2A)

3カ年皆勤賞

定方 悠登・白井 大稀・長野 航大・
松尾 陽子 (龍普3A)・上野 吾響・
長田 大輝 (普3B)・松本 優雅・
村里 龍治・市島 奈津美 (普3C)・
江口 沙希乃・平田 莞菜・
平田 純菜 (情3A)・岩崎 和清・
立谷 和太・山口 剣信・天田 麻那・
浦川 ころこ (情3B)・松岡 賢次郎・

松本 翔太・山口 遥平 (龍機3A)・
石原 光・奥村 魁夢・松岡 和・
松永 笑・山口 太陽 (機3B)・
中村 颯・野崎 凌平・畑 幹人・
宮崎 駿風・山口 結大・
吉永 虎太郎 (機3C)・林 俊輔・
山田 昂 (機3D)

今年度の

卒業証書授与式

答辞は

福江 美羽さん (情3B)

決定!!

卒業式のメインイベントの一つとも言える卒業生答辞。今年度は、卒業生二七七名を代表して情報ビジネス科B組の福江さんが行うことに決定した。卒業式という晴れの舞台上、大役を任せられた彼女に、その心境を聞いてみた。

Q 最初に答辞を依頼されたときはどんな気持ちでしたか。

答辞を読むことになったと聞かされたときは、本当に驚きました。とても重要な役割なので、私に出来るのか不安になりましたし、実際の所今でも不安でいっぱいなんです。でも、先生方が選んでくださったので、自分ができる限り、しっかりと頑張りたいと思っています。

Q どのような想いを込めて答辞を読もうと思っていますか。

卒業式は、私にとってだけでなく、みんなにとってもとても大切なもので、ずっと思い出に残るものだと思います。だから、七十回生全員の代表として恥ずかしくないよう、みんなの気持ちを込めた答辞にしたいと思います。

ありがとうございました。当日は素晴らしい答辞になることを期待しています。

月並みな言い方ではあるが、平成最後となる今年度の卒業式。その顔に選出された福江さんが振り返る高校生活。そして、将来への想い。彼女は後に残る私たちに、どのようなメッセージを残してくれるのだろうか。今から本番が楽しみだ。



豪復活 男子バスケットボール部

県新人戦3位入賞!!

一月の二十六日から二十八日に行われたバスケットボールの県新人戦。長崎地区を二位で勝ち上がった本校男子バスケットボール部は、見事三位となり久しぶりの県ベスト4入りを果たした。

二回戦から登場となった瓊浦バスケット部。順当に二、三回戦を勝ち上がり、準々決勝の相手は長崎工業。実力ではこちらに分があるものの、一年生に好選手が多く警戒を要する相手に対し、瓊浦の攻撃力が爆発した。1Qからリードを奪うと、その後相手に一度のリードも許すことなく、結果として四十点差をつけての圧勝となった。これでベスト4が決定。続く準決勝の相手は長崎東。今年度、県の主立った公式戦で三度対戦し、一勝二敗と負け越している因縁の相手。けれども直近の地区新人戦では八七―六九と勝っている相手。先の試合同様勝てるという自信を持って臨んだ準決勝。前半2Qを終えて同点という緊迫した試合。3Qで相手にリードを許し苦しい展開。そのままするずるといくかと思われたが、4Qに怒濤の反撃を見せる瓊浦バスケット部。けれども追い上げは一步及ばず、七九―八〇で無念の準決勝敗退となった。

しかし、ここで気持ちを切らさないのが今の瓊浦。続く三位決定戦では西海相手に見事勝利し、久しぶりに県大会で三位という好成績となった。主将の喜多くん(普2B)は、「準決勝の東高戦は、チームの主力である西野(普2C)を怪我で欠き、厳しい試合を予想していたが、その中でも粘り強く戦って良い試合ができた。負けはしたが、西野の分も他の皆が頑張ったと思う。三月に行われる九州大会は、ベストメンバーで臨めるので、Bパートの優勝を勝ち取りたい」と今回の県大会を振り返って語った。

「One for Team, Team for One」をスローガンに掲げる瓊浦男子バスケット部の今回の三位入賞は悔しくもあり、



部活動戦績

男子ハンドボール部
平成30年度全九州高等学校選抜大会
ハンドボール競技
準優勝

男子バドミントン部
長崎県スポーツ賞
(第46回全国高等学校選抜バドミントン大会)

男子陸上競技部
平成30年度長崎県高等学校新人体育大会新人駅伝競走大会
第2位
第4区 区間賞
長島 玲音(龍機2A)

男子バスケットボール部
平成30年度長崎県高等学校新人体育大会
第3位

剣道部
平成30年度長崎県下女子剣道大会
高校生個人の部
第3位 山本 水椿(機2B)

柔道部
平成30年度長崎県高等学校柔道選手権大会
女子個人48kg級
第2位 栗山 瑛(龍普1A)
女子個人57kg級
第3位 浦 琴美(普1B)

二〇一九年度1学期行事予定

4月	8日	始業式・新任式 入学式・対面式 PTA入会式
9日		交通講話
9日		部活動紹介
10日		宿泊研修①(〜12日)
15日		第1回実力考查
16日		各種委員任命式
19日		歓迎遠足
19日		身体測定予備日
23日		身体測定 歓迎遠足予備日
5月	7日	マナーアップ週間(〜10日)
8日		スポーツテスト
15日		中間考查(〜17日)
19日		PTA総会 進学保護者会
21日		高総体特別時間割
27日		振替休日(高総体)
30日		高総体推戴式
31日		県高総体総合開会式
6月	1日	県高総体(〜3日)
5日		振替休日(高総体)
11日		マナーアップ週間
12日		三者面談③(〜14日)
24日		創立記念集会
24日		創立記念週間
25日		創立記念日
27日		期末考查(〜2日)
7月	3日	三者面談③(〜12日)
4日		I・H等壮行会
6日		第1回学校見学会
9日		生徒総会
13日		Challenge21(〜15日)
17日		メディア教育
18日		校内競技大会
19日		終業式